

第49回 群馬教区伝道師補任祖山研修会 実施

—令和7年 第50回記念研修会実施に向けて—

令和六年十月十日から十二日にかけて、「第四十九回群馬教区伝道師補任祖山研修会」が、総本山延暦寺を会場として実施されました。



早朝のお山を歩く参加者



座禅止観研修の様子

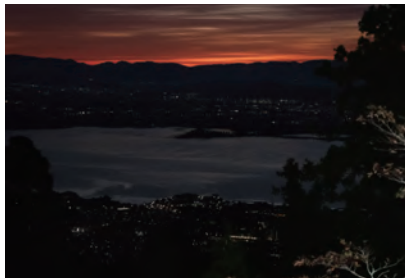
◀ 2・3 頁に伝道師補任研修特集記事

比叡山到着後は、延暦寺参拝部並びに法務部・僧侶ご指導のもと、止観、礼拝、写経、徒歩による諸堂参拝等の実習を積み、併せて、群馬教区ご出身の千日回峰大行満大阿闍梨・上原行照師より、ご法話とお加持をいただいた他、「比叡山世界遺産登録三十周年」を記念して特別ご開帳が行われている釈迦堂にて、秘仏「釈迦如来像を拝観するなど、中身の濃い充実した研修を行いました。

三日間にわたる研修を修了した参加者は、天台座主親下より「天台宗伝道師」の辞令を賜り、天台宗より伝道師輪襲袋、群馬教区より伝道師バッチが授与され、今回新たな三十五名の伝道師が誕生しました。伝道師は宗務所長が推薦した者を、天台座主親下が任命します。

天台宗伝道師は、本宗の檀信徒で祖訓の宣揚及び宗義の拡充につとめ、また群馬教区では、自らの研修に努めると共に、伝教大師のご精神を根幹

とし、宗教活動を推進し、地域社会の浄化と精神生活の向上に寄与することを目的としています。



山上からの朝焼け

新会員を加えた群馬教区伝道師の会員数は七百八となり、年間事業として、総会研修会、止観会、写経会等を実施しています。

全国では、九州東教区・埼玉教区・福島教区に伝道師が在籍しており、また、総本山延暦寺を会場に補任研修会を実施しているのは群馬教区だけです。



発行日
令和7年1月1日
発行所
高崎市中尾町1261
TEL.027 (362) 5620
天台宗群馬教区宗務所
発行人 俊
編集責任者 観
三浦 祐俊
小出 行
印刷所 会社
芝入印刷株式会社
TEL.027 (253) 4937



年頭の
ごあいさつ

群馬教区宗務所長

三浦 祐俊

新年あけましておめでとうございませう。麗しき平和を重ねていく新しい時代、令和七年の希望に輝く新春を迎え、天台宗徒・檀信徒の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと拝察お慶び申し上げます。

昨年を顧みて、能登半島における元旦の地震災害・九月の豪雨災害など、世界各地においても天災地変に見舞われました。お亡くなりになられた方々のご冥福を祈り、甚大な被害を受けられた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。そんな中、幸いにして私達は日々穏やかに過ごせまことに感謝し、常日頃から災害への備えをして頂きたく存じます。また、世界の国や地域では様々な理由により、いまなお紛争が起こっており、その影で多くの人々が犠牲になつています。紛争の無い平和な社会の実現と、皆が日々安寧に暮らせ



年頭の
ごあいさつ

群馬教区檀信徒会連盟会長

神宮 直仁

新年あけましておめでとうございませう。令和七年の新春を迎え、天台宗の宗徒および檀信徒の皆様には平穩にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内での災害や事件が相次ぎ、深い悲しみと反省の念を抱かせる一年でした。石川県・能登半島での地震では多くの方が被害を受け、未だ復興の途中です。被災された皆様の平穩を願い、支援を惜しまぬ心を持ち続けたいと考えています。

昨年九月、群馬教区主催で「第九

ますよう心から祈りましょう。

さて、天台宗では昨年十一月に任期満了により宗務総長が改選され、新たに細野舜海内局が発足し、群馬教区から前宗議会議員高崎部満勝寺住職原徳明師が天台宗参務社会部長に就任されました。誠に

継続により、「お大師様は浄法寺様にお出でになりました。浄法寺様には大きなお大師様がいらつしやいます」と、各地隅々まで伝え、お大師様のご遺徳を偲び報恩謝徳の心を込めて、お大師様の御心を発信すべく、一層の教区事業の充実を心掛けて参りたいと存じます。

おめでたく、更に中央と教区を繋ぐ架け橋として大いに心強い限りでございます。

そして、様々な情報を皆様にお伝え致したく、使いやすくなりやすい群馬教区ホームページを開設しております。是非ご覧下さい。

本年群馬教区では、昭和五十三年発足の伝道師会連盟と教区共催の伝道師補任祖山研修会（同紙詳細説明）が五十回目を数えます。この節目の年に、多くの檀信徒の皆様と共に登叡し、お山の靈氣に触れ、お山の修行を体験して頂き、菩提寺の護持発展に協力し、一隅を照らす運動を実践する新伝道師の誕生を願っております。是非、ご一緒に比叡山へ参りましょう。

皆様におかれましては、新しい生活様式の実践にてお過ごし頂き、本年こそ風雨順時にして、心穏やかな幸多き年であることをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

また、浄法寺伝教大師報恩法要並びに境内清掃奉仕活動も十回目を迎え、この事業の

がこの教えを示されたのは、日々の中で他者を思いやり、自分の務めを尽くすことが、いずれば社会全体を明るく照らす光となるという信念に基づいています。

回浄法寺伝教大師報恩法要並びに境内清掃奉仕活動」が行われ、教区内住職、檀信徒、群馬天台青年会、寺庭婦人会など多くの方が参集し、意義深いひと時となりました。皆様と共に伝教大師の遺徳に感謝を捧げ、「報恩謝徳の心」で生きることの大切さをかみしめました。清掃奉仕活動を通じて、浄法寺は清らかな心で満たされ、伝教大師さまの慈悲が息づいていることを実感いたしました。

浄法寺での奉仕活動は、「一隅を照らす」運動の実践であり、参加された皆様その思いを共有し、祈りを込めて行動してくだいきましたことに感謝いたします。

天台宗の教えにある「一隅を照らす」という言葉は、私たちが思いやりの心で周囲を照らし、精進することの大切さを説いています。伝教大師

本年も「一隅を照らす」運動を心にとどめ、各地で実践してまいりましょう。日常の些細なことからこそ、大きな変化が生まれます。共に光を広げ、皆様と新しい一年が穏やかで幸多きものとなりますようお祈り申し上げます。

群馬教区伝道師補任祖山研修会について

群馬教区主催の伝道師

与されます。

補任祖山研修会は、昭和五十三年の教区伝道師会連盟発足より、継続して実施され、途中、自然災害やコロナ禍により中止を余儀なくされた年もありましたが、それらを補う形で複数回実施された年もあり、本年第五十回を迎えます。

伝道師となられた方々は、菩提寺ご住職、各部伝道師会、教区ならびに一宗の事業に協力し、宗祖伝教大師の「一隅を照らす」ご精神を社会に広めるため、生きがいを持つて実践活動を推進されています。

この研修を履修することにより、天台座主猊下より「天台宗伝道師」として辞令を賜ると共に、天台宗から伝道師輪袈裟、教区より伝道師徽章が授

今後、伝道師を希望なさる方々のご参考に、以下、令和六年実施の第四十九回研修会を一例として、群馬教区で行っている研修の概要についてご紹介させていただきます。

【研修一日目】

《①結団式》

参加者は早朝、群馬教区宗務所に集合し結団式を行います。その後、大型バス



①群馬教区宗務所での結団式

にて比叡山を目指し出発。往路のバス車内では、天台宗の教えや修行について、DVDを視聴し事前研修を行い、これから始まる実習に対する気持ちを整えます。



②開講式及び実習内容の説明

《②開講式》

比叡山到着後は、ご指導をいただく延暦寺一山のご住職方ご臨席のもと開講式が行われ、続いて実習内容の説明、食事作法等の指導をいただき、以降は比叡山の作法に則った実践態度が求められます。

《③座談会》

研修会初日の夜には、引率の教区所員の進行により、自己紹介や、研修への抱負等を述べてもらう座談会が行われます。参加者同士、お互いを知り、同期研修生としての絆を深める良き機会となります。



③座談会の様子

【研修二日目】

《④止観実習》

研修二日目の早朝は、座禅止観の実習を行います。観光客がいない静寂な堂内での座禅止観によって、心は自然と洗われ、引き続き、根本中堂での朝事(おつとめ)に参加し、法話も頂戴します。



④根本中堂での止観実習

《⑤諸堂参拝》

延暦寺参拝部のご案内をいただき、比叡山西塔から横川にかけての諸堂を、徒歩にて巡拝します。行程の一部には千日回峰の行者道も含まれ、参加者は実際に獣道を歩き、その厳しい修行の一端に触れることができます。



⑤諸堂参拝 浄土院御廟前での読経

研修会日程

日付	時間	内容
1日目	05:00	①結団式
	14:30	比叡山到着
	15:00	②開講式・記念撮影
	15:45	お山の話
	17:00	座禅止観・礼拝 食事作法指導
	18:00	夕食
	19:00	③座談会
	20:00	入浴・放心
2日目	05:00	覚心
	05:30	④止観実習
	06:30	朝事
	07:15	朝食
	08:30	⑤諸堂参拝
	12:00	昼食
	13:00	東塔自由参拝
	14:45	⑥写経
	16:10	ビデオ並びにお話
	18:00	夕食
3日目	19:00	⑦法話
	20:15	入浴・放心
	05:00	覚心
	05:45	⑧礼拝実習
	06:30	朝事
	07:15	朝食
	08:30	⑨閉講式
		⑩教区独自研修



集合写真



食事作法実践の様子



⑦上原阿闍梨によるご法話

《⑦阿闍梨様ご法話》
群馬教区ご出身の、千日
回峰行大行満大阿闍梨であ
る上原行照師より、ご法話
をいただき、お加持を頂戴
します。往路車内のDVD
視聴を通じ、過酷なご修行
に打ち込まれる上原阿闍梨
のお姿に接してきた参加者
一同は、阿闍梨様のお話を
間近に聴聞し、一人ひとりが
直接お加持を頂戴する得
難き体験を得て、深い感動
に浸ります。



⑥写経実習

《⑥写経》
諸堂を歩いて巡る「動の
修行体験」に続いて、「静の
修行体験」となる、『般若心
経』の如法写経を行います。

《⑩教区独自研修》
群馬への復路、教区独自
の寺院参拝研修が行われ
ます。令和六年度は、三岐
教区・横蔵寺様（坂本廣博
住職）を参拝。同寺に祀ら
れている数多くの重要文
化財、ならびに、即身仏を
拝観し、全ての日程を終了
しました。

《⑨閉講式》
延暦寺執行様ご臨席のも
と閉講式が行われ、天台座
主猊下より「伝道師任命辞
令」、並びに、群馬教区宗務
所長より「研修修了証」を
拝受、三日間の研修を修了
します。

【研修三日目】
《⑧礼拝実習》
最終日、最後の実習とな
るのが、根本中堂での礼拝
行です。参加者一同は、根
本中堂ご本尊である薬師如
來の名を唱えながら、五体
投地（額、両肘、両ひざの
五所を地につけて仏を拝む
最高の拝礼）を繰り返し、「懺
悔・感謝・誓願」の心を学
びます。



⑩横蔵寺境内にて研修



⑨閉講式での修了証の授与



⑧根本中堂での礼拝行



根本中堂

【参加者感想文】
第四十九回
伝道師補任祖山研修会に参加して
大徳寺 黒崎 照光
日常生活における礼儀作法、
食事作法等、全ての考えを根本
的に変えなければならない。
先人が教えてくれた諺どおり
「木を見て森を見ず」の譬えど
おり、私は、自我を優先させて
生きてきたように感じざるを得
なかった。
伝教大師が伝えてきた一隅を
照らす精神を皆が持つことに
よって、家庭円満・地域社会の
和、ひいては国際社会における
恒久平和につながっていくので
はないかと思えたのです。
今後の生活に役立つ、大変有
意義な研修でありました。

観世音菩薩についてご法話を戴きました。三日目は、青蓮院門跡將軍塚青龍殿を参拝しました。

研修を通して研鑽を深めると共に沢山の仏様とご縁を結ぶことができました。



一隅を照らそう

第九回 浄法寺伝教大師報恩法要並境内清掃奉仕活動

令和六年九月二十七日、「第九回浄法寺伝教大師報恩法要並びに境内清掃奉仕活動」が、富岡多野部・浄法寺（緑野智彦住職）伝教大師金色尊像御前において、群馬教区主催、教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟・布教師会・群馬天台青年会・寺庭婦人会共催により開催され、県内寺院住職・檀信徒約一五〇名が参加しました。

お出でくださった浄法寺には、『今も大きなお大師様がおりますよ』と広く伝えていきましよう。』とご挨拶され、その後、三浦宗務所長から浄法寺緑野住職へ、教区香華料の贈呈が行われました。

報恩法要は、神宮直仁教区檀信徒会連盟会長の「開式のことば」で始まり、三浦祐俊宗務所長お導師のもと『伝教大師和讃』を参加者全員でお唱えしました。

三浦宗務所長は、「天台宗の宗徒、檀信徒として今を生かされている私たちは、心新たに宗祖伝教大師の御遺徳を偲び、報恩謝徳の心で毎日を穏やかに過ごすことが大切。これからも宗祖伝教大師が

続いて、都筑玄恭師（群馬教区布教師会事務局長）より『伝教大師・最澄さま』と題した法話が行われ、その中で都筑師は「伝教大師最澄さまのご精神は日本仏教のみならず、文学、芸能、芸術、道徳、倫理など日本文化のあらゆる方面に渡り、我々日本人の心の礎となっている。また最澄さまが申された『一隅を照らす』とは、それぞれが与えられた立場で思いやりを持って精進することである。」と菩提心の重要性を説かれました。

報恩法要は、眞下誠治教区伝道師会連盟会長の「閉式のことば」で終

三浦宗務所長導師による法楽



三浦宗務所長導師による法楽



和讃をお唱えする参加者



香を手向ける参加者



境内清掃の様子

了となり、その後、境内の見学と清掃奉仕活動が行なわれました。

参加者は、令和三年に「伝教大師一二〇〇年大遠忌記念事業」として修繕が施された伝教大師金色尊像、並びに、六所宝塔の一つである「上野国浄法寺相輪櫓」をはじめとした堂塔伽藍を、群馬天台青年会の案内のもと、興味深く拝観すると共に、広い境内の隅々まで心を込めて清掃し、伝教大師さまに報恩の誠を捧げました。

高崎部				石昌寺副住職			
富岡多野部				源正寺住職			
北群馬部				正善寺住職			
沼田部				金剛院住職			
東前橋部				正圓寺住職			
伊勢崎部				観月院住職			
世良田部				東楊寺住職			
下仁田部				霊山寺住職			
西群馬部				常福寺住職			
天台宗群馬教区各種団体				龍善寺住職			
「一隅を照らす運動」本部会長				観音寺住職			
群馬教区布教師会会長				西光寺住職			
叡山講福聚教会群馬本部本部長				光明院内裏			
群馬教区寺庭婦人会会長				延命寺住職			
群馬天台青年会会長				法峰寺住職			
天台宗教職員連盟群馬支部支部長				満勝寺住職			
群馬教区保育連盟会長				大福寺住職			
群馬教区保護司会会長				法輪寺住職			
群馬教区民生児童委員会会長				覚成寺住職			
群馬教区延寿会会長				善龍寺住職			
社会福祉事業推進協議会会長				随應寺檀徒			
群馬教区檀信徒会連盟				天龍護國寺檀徒			
会長				富岡多野部			
副会長				高崎部			
同				西群馬部			
同				西前橋部			
同				北前橋部			
同				桐生部			
同				榮昌寺檀徒			
同				島田邦男			
同				眞光寺檀徒			
同				眞下誠治			
同				眞光寺檀徒			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			
同				眞下誠治			

群馬教区
令和六年度

夏期特別研修会開催

七月二十五・二十六日の両日、群馬教区と教区教学布教法儀研修所との共催で、伊香保町「如心の里ひびき野」を会場に、令和六年度夏期特別研修会を開催いたしました。

院塔婆などを紹介されました。また、書道筆法についても解説し、研修生は実際に筆を持ち、天台の書式を学ぶことができました。

研修会には約八〇名が参加し、講師として、群馬教区布教師会副会長小山宗胤師（龍泉寺住職）、大和修験會代表の宮元隆誠師（龍禪院住職）、天台宗総合研究センター二班主任勝野隆広師（東京教区普明寺住職）を迎え、二日間にわたって講座が行われました。

第二講座では宮元隆誠師による「命がけで学ぶ」と題した講義が行われ、比叡山での四度加行の経験や、宗派を超えて集う過酷な富士山峰入り修行「富嶽両界峯入」について、豊富な体験を基に、映像を交えてご紹介いただきました。

また同研修会では、宗議會議員・原徳明師（当時）より、宗議会議報告も行われました。

三浦祐俊宗務所長と小作昌隆研修所長より修了証を授与された研修生は、「夏期研修で学んだ貴重な教えを、自坊にてしっかりと咀嚼し、これからの活動に活かしたい」と謝辞を述べ、研修会は非常に意義深いものとなりました。

調査結果報告」と題する講義が、二講にわたって行われました。前半では、アンケートの調査結果を分析しながら、寺院運営に関わる諸問題について解説され、後半では、群馬教区特有の傾向を提示すると共に、課題の対策についてディスカッションが行われ、活発な意見が交換されました。

第一講座では、小山宗胤師による「天台の書式」の講義が行われ、地域特有の葬儀書式や、現在では見られない貴重な書物について解説し、『弥勒経』を基に自身で制作した「四十九

第三・四講座では、勝野隆広師による「天台宗総合研究センター実施『少子高齢化と寺院運営に関するアンケート』

調査結果報告」と題する講義が、二講にわたって行われました。前半では、アンケートの調査結果を分析しながら、寺院運営に関わる諸問題について解説され、後半では、群馬教区特有の傾向を提示すると共に、課題の対策についてディスカッションが行われ、活発な意見が交換されました。

また、峰入り修行を通して徐々に広がる地域の信仰の様子や、平和を念ずる祈りの大切さについて語っていただきました。

また、峰入り修行を通して徐々に広がる地域の信仰の様子や、平和を念ずる祈りの大切さについて語っていただきました。

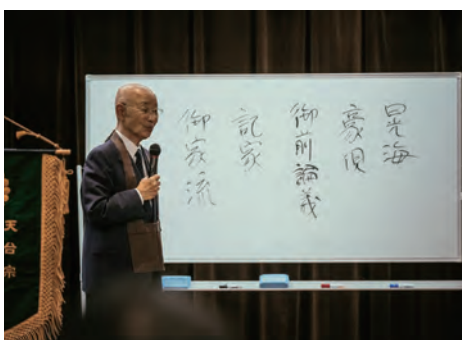
また、峰入り修行を通して徐々に広がる地域の信仰の様子や、平和を念ずる祈りの大切さについて語っていただきました。



群馬教区布教師会副会長 小山宗胤師



大和修験會 代表 宮本隆誠師

天台宗総合研究センター
二班主任 勝野隆広師

大正大学名誉教授 宇高良哲師



天台宗災害補償制度東京連絡所 村上憲一郎氏

群馬教区は教区布教師会との共催で、令和六年九月九日、伊香保温泉ホテル天坊にて、「令和六年度群馬教区布教教学研究会」を開催し、教区内布教師並びに、関東信越地区協議会所属の布教師約八〇名が参加しました。

講師には、第一講に仏教学者で大正大学名誉教授の宇高良哲師、第二講に天台宗災害補償制度東京連絡所の村上憲一郎氏、第三講に大正大学招聘教授で一般社団法人良いお寺研究会代表理事の鵜飼秀徳師をお迎えしました。

大変な学僧であったことなどを解説し、言い伝えてイメージする天台大僧正とは違う一面を、客観的な史実に基づき講義されました。

村上氏は『災害補償制度の近況』と題し、まず火災共済十月改定の要旨を説明。次に具体的事例を上げながら、災害補償制度の重要性や有効な使い方を寺院側の立場から講義されました。

鵜飼師は『寺院を取り巻く現状と、仏教界の未来へ必要とされるお寺であるために』と題し、テレビ局報道記者アシスタントを経て新聞・雑誌記者を二十年間つとめ、宗教社会学という新しい分野を築いた経験から、「現代社会にお



大正大学招聘教授 鵜飼秀徳師

令和六年度

群馬教区布教教学研究会

寺や住職は必要とされているのか？これからのお寺はどうあるべきか？これからの僧侶の役割とは？」といった問題について、同じ僧侶という立場から厳しい現状をありのままに講義されました。

講義終了後は、渡辺玄晃布教師会副会長より講評が行われました。続いて、三浦祐俊宗務所長と角田興憲布教師会長より研修生に修了証が授与され、研修生代表からは「天台大僧正という名僧の知られざる一面や、近年の自然災害等に対する準備また、これからの時代はお寺をどう維持し発展させていくのかといった問題まで含んだ貴重な講義でした。今後の寺院運営に活かしてまいります。」と謝辞が述べられました。

令和六年度
天台宗社会福祉事業推進協議会
総会・研修会

期日…令和六年七月四日から五日

場所…社会福祉法人前橋あそか会（前橋市江木町）

及び社会福祉法人広済会（桐生市新里町）

宿泊…伊香保温泉 岸権旅館

参加人員…十六名

本年度は群馬県が当番県 市長で富岡部金剛院住職榎本
ということ、群馬県の福祉 義法師にお出でいただき、ご
施設の見学・研修を行いました。 挨拶を賜りました。
た。どちらも障害者の施設で 最後に浄法寺を参拝し、高
通所の施設や児童の施設もあ 崎駅にて解散になりました。
り、地域との関係を重要視し、 群馬教区社会福祉事業推進協議会
利用者・入居者の人権を重ん 会長 米原祐文
じた経営理念にて運営されて おります。
（善龍寺住職）記

情報交換会には
来賓として、群馬
教区宗務所長三浦
祐俊師、宗議会議
員原徳明師（当時）、
宗議会議員綾小路
乗俊師、天台宗参
務社会部長柴田真
成師をお迎えし、
有意義な情報交換
会になりました。

二日目の富岡製

糸場見学では富岡



総会・研修会の様子

令和六年十月八日
第二十七回

「人権・同和」研修会

令和六年十月八日、同和問
題にとりくむ群馬県宗教教
団連帯会議（＝群馬同宗連）
は、高崎市の高崎シティギヤ
ラリー・コアホールにて「第
二十七回『人権・同和』研修
会」を開催し、約一五〇名が
参加しました。

群馬同宗連とは、一九九六
年（平成八年）に結成され、
以来、加盟する十四教団（高
野山真言宗・新義真言宗・真
言宗豊山派・真宗大谷派・時
宗・浄土宗・浄土真宗本願寺
派・群馬県神社庁・曹洞宗・
天台宗・天理教・日本キリス
ト教団・立正佼成会・カト
リック教会）が「部落差別を
はじめとする一切の差別を解
消し、人種・民族・ジェンダー・
宗教・文化・生活信条等の相
違を超えて多様性を認め、宗
教者として人権問題に取り組
む」ことを目的として活動を
継続しており、令和五年度か
らは天台宗群馬教区（三浦祐
俊宗務所長）が議長教団を務
めています。

研修会冒頭で、群馬同宗連

議長を務める三浦祐俊群馬教

区宗務所長は、天台宗の人権
啓発方針を踏まえ「あらゆる
差別意識を解消する、という
目的の達成のため、共に学び、
社会に対し啓発を続けていき
たい。」と挨拶しました。

今年度の研修会では、埼玉
純真短期大学客員教授で、ア
イリッシュハーブ奏者・オペ
レッタ作家の永山友美子氏を
講師として迎え、『愛と優し
さで人は育つ』と題し、主に
子どもの人権や子育ての観点
から講演をいただきました。

永山氏は全国各地の矯正
施設、学校、病院、障害者
施設、高齢者施設等で演奏・
講演を行ない、音楽を交え
て生きることの大切さを伝
えています。

講演が始まると、澄んだ
オルゴールのようなアイリッ
シュハーブの音色に、会場全
体が自然と引き込まれまし
た。演奏の間の語りで永山氏
は、「子どもは、大人の言う
ようにではなく、しているよ
うに育ちます。いかなる時で
も、真剣に子どもと向き合っ
てください。」と、やわから
く優しい口調でメッセージを
伝えました。

講演の最後では、永山氏の
演奏する『涙そうそう』に合
わせ、群馬教区心月院住職
高橋美清師（群馬教区人権啓
発委員）が、葉祥明さんの『母
親というものは』という詩の
朗読を行ない、会場全体に広
がる感動の涙の中、有意義な
研修を終えました。



講師の永山友美子氏



心月院住職 高橋美清師と



演奏をする永山友美子氏



会場内の様子

シリーズ群馬の寺々 第五十四回

世良田部 来迎寺

太田市新田中江田町

住職 武田 孝順

〈本尊 阿弥陀如来〉

寺号 来迎寺（らいこうじ）

山号 安養山

院号 攝取院

創立 鎌倉時代（推定）

開山 俊叡比丘

開基 新田氏の一族、

世良田氏（推定）

（世良田頼氏・江田満氏）

現本堂 昭和四十五年再建

現在 四十世 孝順

「新田庄江田郷来迎寺比丘俊叡建立」

今から五百年ほど前、享祿

式年（一五二七）の古文書に

来迎寺の縁起を知る右字句が

記されている。

また、寺の明治二十三年の文

書に、江戸時代末の安政年間

（一八五四）に火災に遭い、堂塔、

古文書などを焼失したと記され

ている。ただ、本尊仏の頭部は

持ち出され、現存されてきた。

来迎寺本尊阿弥陀如来像のそ

の頭部は、残存高六十三センチで、

桧材の寄木造り、金箔を貼り、

温顔で美しく理知的な作風であ

る。その作風から鎌倉期の製作

と推定され、新田町重要文化財
第一号に指定された。

これらの古文書や阿弥陀如

来の仏頭から、来迎寺の阿弥

陀如来（丈六の座像）を造仏

できるのは、この地域の豪族

新田氏一族の世良田義季の子

世良田頼氏やその子江田満氏

と推察される。

世良田頼氏は京都大番役の

時、西方極楽浄土を願う寺院

の建立を思い立ち、京都の僧、

俊叡を招請し、来迎寺を創建、

阿弥陀如来像を本尊に祀った。

来迎寺は、その後七百年に

わたって、この地域の人々に

信仰され、護持されてきた。

現本堂は、安政の火災後、

百拾年を経過して、檀信徒の

総意により昭和四十五年に再

建された。



来迎寺仏頭
（高さ60cm）



来迎寺本堂（昭和45年再建）

教区青少年研修会感想文

令和六年八月六日～七日、北群馬郡金蔵寺様（濱田孝曉住職）にて教区青少年研修会が行われました。研修生として参加した藤原和奏さんの感想文を掲載いたします。

おもしろくて楽しかった研修会

善勝寺 五年生 藤原 和奏

去年の研修会は、なんだか

不安で少し泣いちゃったけど

今回の研修会は、二回目だっ

たからか泣かなかったし楽し

い二日間が楽しめました。

特に一日目で楽しかったこ

とがあります。それはキッズ

ヨガとだるま作りです。

キッズヨガはなんだかいろ

いろなワザをやってなんだか

リラックスできたからです。

だるま作りは、自分で白い

だるまに色をぬって自分だけ

のだるま作れたので楽しかつ

たです。

そして一番楽しかったこと

は、去年きていた友達と夜の



研修生代表謝辞



グリーン牧場でのレクリエーション



座禅体験

一宗功労者表彰

住職五十年勤続

西福寺住職
小澤 徳 順

住職三十年勤続

大泉寺住職
宮川 泰 淳

眞光寺副住職
都筑 玄 恭

醫王寺住職
長谷川 照 順

法峰寺住職
大須賀 亮 照

無量寺住職
船戸 祐 昌

金蔵寺住職
猪口 暢 照

布教功労

正観寺住職
観月 祐 真

延命寺住職
観月 祐 憲

示寂

令和六年七月九日
高崎部天龍護國寺住職

滝川 英磨 師 (86)

就 任



令和六年十一月十七日、「宗務
総長・参務任命辞令授式」が
行われ、高崎部満勝寺住職原徳
明師が、新たに天台宗参務社会
部長にご就任なされました。

予 告

群馬教区檀信徒会連盟宿泊研修会
（「二隅を照らす運動」群馬教区本部年次大会）

令和七年三月六日～七日

会場：伊香保町・ホテル木暮